

論語と現代

the Analects of Confucius

Abstract

Our goal is “To read rongo (the Analects of Confucius) and think about relationship Japan and rongo”. At first , we read rongo and think what it says in ourselves. And we talk with. And then, we want to know about “relationship Japan and rongo “. This is because we know that Japan has took it in politics about 1500 years ago. So we examine many books and web sites.

1. 目的

孔子の目指した政治体系と現在の日本の政治体系と比較し、孔子の思想が現在にどう生かせるかを探究する。歴史の中で、日本が論語および儒教をどのように受容していったか、その軌跡をたどってこれからの日本が、それらをもどのように活用していくか。

2. 方法

文献を読む。そして考察する。

3. 結論

孔子の理想とする政治体系は徳治主義、一方で現在の日本は法治主義である。つまり、孔子は政治において政治をする人間（為政者）を重要視していたが、現代日本は法律によって統治されている。

そして、この孔子の思想は、一見、独裁主義を助長しうるように思われるが、しかし論語は受け取り方によって、一つの側面では民主主義をふくむ近代化への革新を主張しているようにもとらえることができる。そのような論語のチカラに突き動かされた幕末の浪士たちの根本には、論語が根付いていたことは容易に想定できる。そして明治維新を進めていったのである。

この浪士たちが国家をつくりあげていく中で、重要視したひとつに、教育があったことは間違いない。なぜなら彼らは幕末において論語、儒教の思想のチカラがあってこそ新政府を立ち上げるに至ったのだからだ。そこで、教育の根本に儒教を用いたのだ。

しかし、今の日本に、それが根付いているとは思えない。そこで、私たちは、今まで特に戦後教育においては、軍国主義を助長するとして悪い側面をクローズアップされてきた儒教であったが、明治維新の立役者や1960年代～70年代の高度成長期を支えた人々は、教育勅語のもとでの教育体制にて育ったという事実は揺るぎない。

そこで私たちは、いまの教育において儒教の考えを再考し、より入れていくことが求められる時代に来ているのではなかろうかと、提言する。

*参考文献

論語の講義—（諸橋轍次）

明治維新の敗者と勝者（田中彰）

儒教史（戸川芳郎 蜂屋邦夫 溝口雄三）

日本を創った思想家たち（鷲田小彌太）

日本人と中国人どっちが残酷で狡猾か（孔健 渡部昇一）